森林レンジャーがゆく（45）

サンちゃんの仲間たち

両生類の産卵期は２月から６月ぐらいまでがピークになっています。カエルやサンショウウオたちは、今年も頑張って新しい世代を残すためにさまざまな危険と向き合いながら交尾や産卵を行います。私は８年前からあきる野に生息しているこれらの両生類を観察し、５年前からはレンジャーとして調査も行っています。身近に存在していたトウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、ツチガエル、トウキョウダルマガエルやヤマアカガエルなどの両生類が急に減少している現状を確認しました。

実は、両生類は自然の中ではたくさんの生き物とつながっており、生態系の中で大変重要な役割を担っています。両生類の生息状況、個体群や個体数の変動などは自然のバランスを保つ上で非常に心配です。例えば、民家周辺での哺乳類の増加や農産物などへの被害は両生類の減少とも関係していると見られます。なお、さまざまな環境改変や汚染に敏感である両生類が姿を消したところでは、その環境が悪化したことを示しています。

今年も、トウキョウサンショウウオのために何箇所かの産卵場所を整備しました。また、コレンジャーと力を合わせて小宮地区の森の中で、両生類や水生昆虫などが産卵できる様に池を造りました。このような環境は、多くの種類の生き物が新しい世代を残すために必要としています。私は、あきる野の自然の中で消え行く止水系の水場の現状を変えるために行動し、整備を続けていきたいと思います。それは今できることの一つです。

（パブロ）

トウキョウサンショウウオのオスと卵のうの様子